

テーマとした理由や背景

- ・ 誕生会でのロウソクを吹き消すのが好きな子どもたちの姿
- ・ 絵本や紙芝居で出てくる息や風を楽しむ姿
- ・ テラスに設置されている風車が回ることに興味を持つ姿
- ・ 一番身近な物質だけど、目に見えない空気の不思議や面白さをどう捉えているのかという保育者の興味
- ・ さまざまな形を見せる空気と出会った時の子どもたちの驚きや喜び、気づき。そこからの子どもたちの仮説や検証への興味

吹きごま

(11月下旬)

期待する経験

- ・ 空気をを感じる
- ・ 自分の吐く息で回るコマの面白さを感じる。



子どもの様子や言葉

- ・ 見本のコマを吹いて見せると、「あれ(扇風機)と同じだ。」「あっち(テラスの風車)にもある。」と声上がり、コマの形と同じものに気づき見比べてみる。
- ・ 保育者のコマがなんで回るんだろう？の質問に、「わかんない」と言っていたので、手の平にふーっと息を吹きかけたり、絵本で仰いでみたりすることで「息だから。」「風だよ。」との声上がる。
- ・ 実際に自分のコマを作ると、息を吹きかけてみる姿がある。また、コマにシールを貼ったり、ペンで書いたことで回っているコマを見て「色が変わった〜。」と声をあげる。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・目に見えない空気を言葉で表現にするのは難しい部分もあるが、子どもたちなりに空気存在を認識しながら生活していることを感じた。
- ・自分の息でコマが回る面白さを感じて欲しくて今回はこの活動を選んだが、息を吹きかける角度により上手く回らないこともあり、その先の気づきや面白さの探究に繋がらなかった。

クラスとして

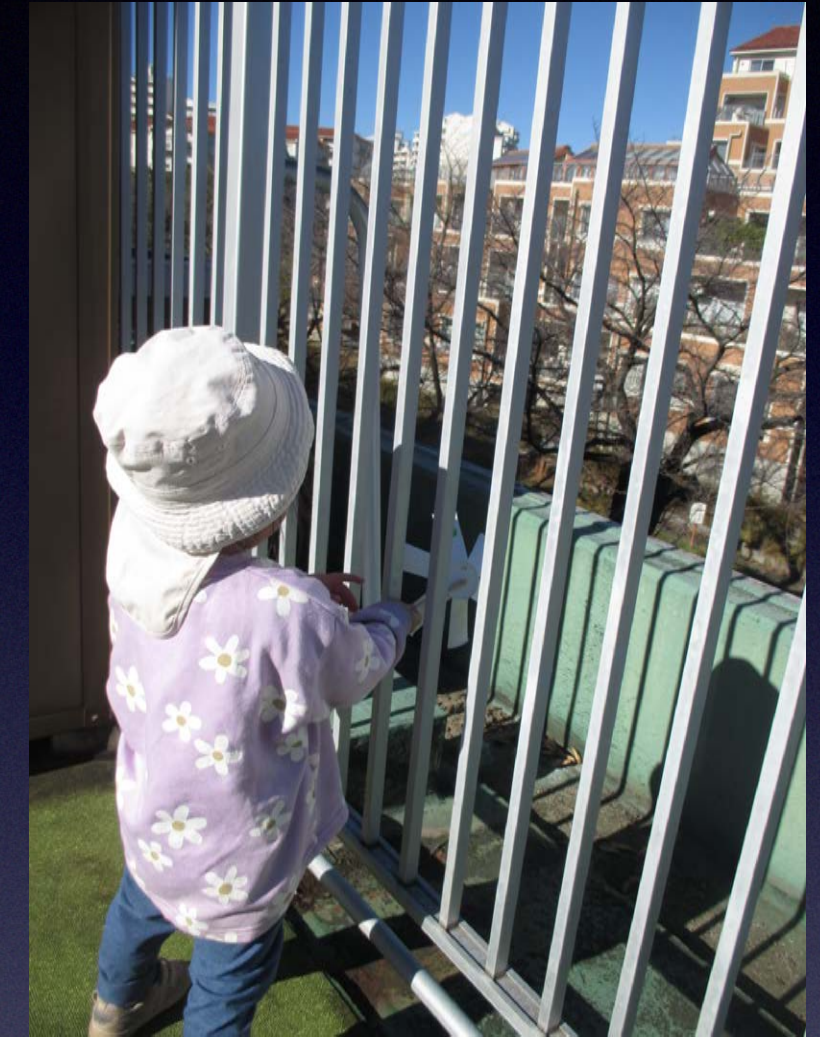
- ・コマが回る様子を見て、形なのか、回るという動きが一緒だからなのか、扇風機や風車の名前があがる。
- ・息を吹きかけることでコマが回り、喜んで繰り返し楽しむが、真上から吹きかけないと上手く回らないことに気付く前にやめてしまった。
- ・コマをシールやペンで飾っていたことで、回っている間の色の変化に気付く。

風車

(12月)

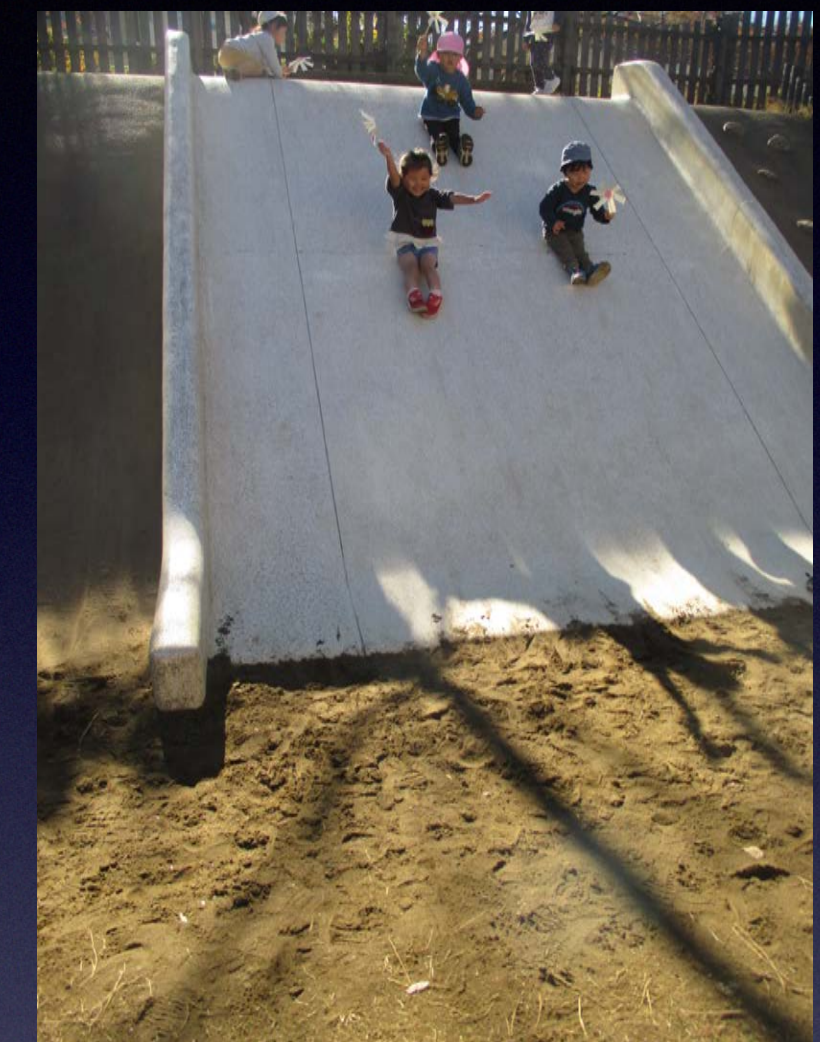
期待する経験

- ・ 風車が回る面白さを感じる。
- ・ どうすると風車が回るのか、回らない時との違いに気付く。また、回る速さの違いに気付く。



子どもの様子や言葉

- ・ 今までの経験から風が吹くと風車が回ることがわかっているようで、さまざまな場所で風車をかざす姿がある。また、作った直後は「ふー」と吹く姿もあったが、自分が動くことで風車が回るので、腕を大きく動かしたり、走る姿があった。
- ・ 「滑り台でもやってみる」と風車を持って滑り、回っているのか確認したり、手を上げた方がもっと回るのではないかと試す姿がある。
- ・ 「先生、見てて。早い(早く回る)よ。」と走って回して見せる子がいる。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・吹きごまより回りやすく、風を受けたり、腕を動かしたり、歩いたり走ることなど、自分が行動することによりコマが回ることに面白さを感じている様子が見てとれた。
- ・自分の行動が風車の動きに影響を与えることに気づき、動きを変えることでより早くなると考え、走ってみたり手を上げて滑り台を滑ってみたり、さまざまな方法を検証する姿を感じた。

クラスとして

- ・自分がどう動くかにより風車が回ったり、その回転が増えるのかを自分なりに考え、それを試していた。
- ・「先生見てて、早いよ。」と自分で見つけた早く回る方法を、共有しようとしていた。また、友だちの姿を見て、自分で同じようにやって確認する姿があった。

空気砲とうちわ

(2月)

期待する経験

- ・ 空気砲やうちわを使って、風を起こす面白さを感じる。
- ・ 起こした風で物を動かし、目に見えない風の動きを感じる。



子どもの様子や言葉

- ・ 段ボールの側面を叩いて出てきた空気砲を浴びた子どもたちは、目には見えないが風の動きを感じて笑顔を見せ、「もう一回」と繰り返し楽しんでいた。
- ・ 膨らませた風船の口から、ゴムをブルブルと振るわせながら出ていく空気の流れを感じて、指先の力を緩めたり締めたりしながらその様子を楽しんでいた。
- ・ 空気砲やうちわを使い、風船や紙テープを動かすことを楽しんでいた。また、それだけでなく、「吹きごま」の時のように吹いて動かしてみようとする子もいた。
- 「なんで動くんだろう？」の保育者の問いに、「風だからだよ。」と答える。
- ・ 友だちが仰ぐうちわの風に「冷たーい。」と表現する子がいた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・今回は道具を使い、間接的に風を起こすことを楽しんだ。空気の流れが物を動かすことを感じながら楽しんでいる様子が伝わってきた。また、回を重ねるうちに、風を起こす方法は様々あることや空気の流れを認識してきていると感じる。
- ・室内は寒くなかったが、うちわで仰いだ風にあたり「冷たい」との表現する様子に、体感を持って「風冷え」を感じている様子があった。
- ・空気砲は、叩く力が必要で子どもたちには少し難しかったようだったが、うちわも用意していたので、簡単に空気の流れを作ることができた。

クラスとして

- ・うちわで起こす風でも、空気砲でも、自分の息を吹きかけても、紙テープを動かすことができ、風を起こす方法は様々ある気づき。
- ・うちわを動かすことでその先に風ができる、段ボールを叩くことで穴から空気が出てくるなど、空気の流れを感じている様子。
- ・部屋は寒くないのに、風は冷たいという気づき。

サーキュレーター

(3月)

期待する経験

- ・サーキュレーターの風を使い、さらなる遊びの展開と空気への探究。



子どもの様子や言葉

- ・サーキュレーターに手をかざし風を感じたり、保育者が風船を上げて見せると子どもたちもすぐに風船を手に取り試していた。しばらく楽しむと、次は近くにある画用紙や折り紙、ボールなどをサーキュレーターの風に当て飛ばしてみる姿や、飛行機のほうがよく飛ぶかもしれないと紙飛行機を作ってほしいと保育者に伝える姿があった。
- ・ビニール袋を見つけた子が同じようにサーキュレーターの上で飛ばしていたので、こうしたら面白いかもとビニール袋の口を下にすることを伝えると、膨らむビニールを見てさらに興味を深め、「もっと大きなビニールでやりたい。」と大きなビニール袋を取りに行く。大きく膨らむビニールに「もっとくっつけたい(大きくしたい)」とビニールをつなげてみることに。2つ繋げたビニールが膨らむ様子を見て、興味を持った他児が来て「中に入りたい」と言う。入ることはできたがさすがに狭く、もっと大きいのを作ってみようということになった。



子どもの様子や言葉

- ・一緒につなぎ合わせたビニールに、サーキュレーターで風を送り込むと、膨らんでいく様子をワクワクした表情で待ちきれないとばかりに触れてみていた。その際に「なんでこんなに大きくなるんだろうね。」と聞いてみると、「これ(サーキュレーター)が風だからだよ。」と答える子がいた。
- ・膨らんだビニールの中に入ると、ちょっとした異世界と楽しむように、ジャンプしたり寝転がったりと楽しんでいた。
- ・片付ける時には、ビニールの上に乗ったり、出入り口から出てくる空気を楽しんでいた。
- ・この日に参加していなかった子にも楽しませてあげようと提案すると、誇らしげに準備する姿があった。



振り返り（気づき、省察、考察）

クラスとして

- ・サーキュレーターで様々な物を飛ばすことを試しているときに、紙飛行機は空を飛ぶ物だからただの紙より飛ぶと仮説を立てて試していたが、風の受け方などで必ずしも紙飛行機がよく飛ぶわけではないということを体験として学んでいた。
- ・サーキュレーターで風船を上げて楽しんでいる中で、大きな風船は高く上がるが、小さな風船は上がる高さが低いことを発見していた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 風船以外を飛ばしてみようと試す物の中には、大人から見て明らかに飛ばないと思われる重いものではなく、子どもたちの中でも飛ぶための概念があると感じた。
- ・ ビニールを切り開いて貼り合わせるのは少し難しいと思い保育者が始めたが、ハサミを手にやってきた女児がいた。ビニールを切る時のコツなど伝えながら一緒にやっていると、次第に上手になっていった。子どもたちの様々な力を獲得していく過程には、興味関心が大きな原動力になっていることを感じた。
- ・ 誇らしげに準備をし、他児を招待する様子に自信をつけていく姿を感じた。
- ・ 探求的活動のテーマを「空気・風」と決めて行ってきたが、2歳児では目に見えない物を言葉で表現するには少し難しかったかと思った。しかし、言葉にせずとも子どもたちは空気や風を楽しみながら、様々なことを考え、仮説を立てて試してみたり、うまくいったことも、思った通りにならなかったことも体験しながら、空気の性質や空気と物の関係性を知っていく過程を感じた。

(参考資料)

子どもの思考を探りながら深める

